

神の慰めを届ける“手紙”

IIコリント 1-3-7（要旨）

説教者 原田憲夫



そ、神ご自身にほかなりません。ローマ8-31-39参照。

そうです。どんな逆境/苦しみの中に置かれても、「神が私たちの味方です」、「何ものも主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできない」のです。

キリスト教会のことを「慰めの共同体」と呼んだ神学者がありました。特に、現代にあってその意味するものには深いものが感じられます。

【1】 苦しみ/苦難（3-7）

今日の聖書箇所には「苦しみ」という言葉がたくさん出てきます（v.3-7に6-7回）。しかし、ここの「苦しみ」は、病気に伴う＜苦しみ＞や、自らの過ちによって引き起こされる＜苦しみ＞とは区別されるものです。

ただ一つ、キリストを信じ従うゆえに経験する「苦しみ/苦難」です。謂わば、不当な、理不尽な＜苦しみ/苦難＞です。8-9節参照。

しかし覚えて下さい。この「苦しみ/苦難」は十字架の道を歩まれた「キリストの苦しみ/苦難」と通じるものなのです。主は自分の十字架を負ってわたしに従ってきなさい、と招かれました。

▷あなたも同じような「苦しみ/苦難」を経験していますか？

【2】 神による慰め（4）

しかし、十字架を負ってキリストに従う者には、この「苦しみ」以上に神から大きな「慰め」が与えられると、使徒ははっきり語ります。

1-4 神は、どのような苦しみのおきにも、私たちに慰めてくださいます。

十字架のないところに私たちの信仰がないように、「苦しみ」のないところに「慰め」は必要ないからです（「慰め/慰める」v.3-7に9-10回）。

ここで使われている「慰める(παράκλησις)/慰め(παράκλησις)」という語は「励ます」とも訳されます。しばしば助け主(παράκλητος)である聖霊の働きを示します。単に「苦しみ」を取り除くことでもありません。苦痛を和らげる同情という意味の「慰め」より深いものがあるのです。

勇気をもたらす慰め、その苦難に立ち向かうことを可能にする慰めなのです。

私たちは実に弱い者です。「われわれの足許で口をあけて神への懐疑(疑い)という虚無の中へ転落させようとする絶望的状况」(H.J.イヴァント)を、身近な苦しい出来事の度に経験させられます。

しかし、そんな絶望的状况から守り、力を与え立ち上がらせてくださる「慰め」の拠り所こ

▷あなたは、この「神による慰め」を経験していますか？

【3】 神の慰めを届ける「キリストの手紙」(4b-5)

4b-5節には、キリストにある苦しみが多ければ多いほどキリストによる慰めもあふれるとあります。「神による慰め」を経験している人は、他の人たちを慰めることができるというのです。すなわち、「神の慰め」を届ける「キリストの手紙」とされるのです。

使徒パウロはこの手紙の中で具体的な人と人の往来が「神による慰め」をもたらしたことに触れます。7-4-7参照。

パウロはテトスをコリントに派遣しましたが、コリントの状況とテトスの帰りが遅いことを心配していました(2-13の続き)。やがてテトスに会うことができた時、そこに神の御手(聖霊)が働いているのを見ました。コリントの教会は以前の過ちを悔い改め、「神のみこころに添った悲しみ」に導かれていたのです。パウロの口から「喜び」があふれ出しました(4b、7b、9a、13、16節参照)。神はテトスを通して使徒パウロを慰め、励まし、強くしてくださったのです。「人から人へ」、人と人の往来が「神による慰め」をもたらしたのです。

今、もう一度、あの「古い手紙」が現代の私たち-あなたに伝える声に耳を傾けてください。

「土の器」にすぎない私たち-あなたの内には「キリストの復活のいのち」があふれているのです。キリストのからだ-教会には「神による慰め」が満ちているのです。

今日、「神にある慰め」を必要としている方のもとへ、だれが届けますか？

だれが苦難の中にある宣教者を勇気づけ、孤独の中にある兄弟姉妹を励ます「慰めの手紙」となるのでしょうか？

兄弟姉妹、あなたなのです！